報道発表

文化庁
AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS

平成２５年１１月１５日

史跡等の指定等について

文化審議会（会長　宮田（みやた）　亮平（りょうへい））は，１１月１５日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て，史跡名勝天然記念物の新指定１４件，追加指定等２９件，登録記念物の新登録３件，重要文化的景観の新選定５件について，文部科学大臣に答申しました。今回答申された史跡等の指定等の詳細については，別紙のとおりです。

この結果，官報告示の後に，史跡名勝天然記念物は３，１１３件，登録記念物は８２件，重要文化的景観は４３件となる予定です。

＜担当＞　文化庁文化財部記念物課

課長	榎本
課長補佐	川島
主任文化財調査官（史跡部門）	佐藤（内線２８８０）
主任文化財調査官（名勝部門）	本中（内線２８８１）
主任文化財調査官（天然記念物部門）	桂（内線２８８３）
文化財調査官（文化的景観部門）	市原（内線３１４２）
主任文化財調査官（埋蔵文化財部門）	禰宜田（内線２８７５）
調査係	古川・吉野（内線２８７８）

電話：０３−５２５３−４１１１（代表）
０３−６７３４−２８７８（直通）

別　紙

史跡名勝天然記念物　　（平成２５年１１月１５日現在）

種　　別	現在指定件数	今回答申件数			合計（現在指定件数と答申件数との合計）
		新指定	解除	統合による減	
史　　跡 （うち特別史跡）	１，７２１ （６１）	９ （０）	０ （０）	６ （０）	１，７２４ （６１）
名　　勝 （うち特別名勝）	３７６ （３６）	２ （０）	０ （０）	０ （０）	３７８ （３６）
天然記念物 （うち特別天然記念物）	１，００８ （７５）	３ （０）	０ （０）	０ （０）	１，０１１ （７５）
合　　計	３，１０５ （１７２）	１４ （０）	０ （０）	６ （０）	３，１１３ （１７２）

（備考）

件数は，同一の物件につき，２つの種別に重複して指定が行われている場合（例えば，名勝及び天然記念物など），それぞれの種別につき１件として数えたものです。

なお，重複指定物件を１件として数えた場合，

現在指定件数は，　　２，９９６件

答申後合計件数は，　３，００４件　です。

登録記念物

種　　別	現在登録件数	今回答申件数		合計（現在登録件数と答申件数との合計）
		新登録	抹　消	
遺跡関係	７	１	０	８
名勝地関係	６６	３	０	６９
動物，植物及び地質鉱物関係	５	０	０	５
合　　計	７８	４	０	８２

（備考）

件数は，同一の物件につき，２つの種別に重複して登録が行われている場合（例えば，遺跡関係及び名勝地関係など），それぞれの種別につき１件として数えたものです。

なお，重複登録物件を１件として数えた場合，

現在登録件数は，　　７７件

答申後合計件数は，　　８０件　です。

重要文化的景観

種　　別	現在選定件数	今回答申件数		合計（現在選定件数と答申件数との合計）
		新選定	解　除	
重要文化的景観	３８	５	０	４３

「新指定・新登録・新選定」答申物件

《史跡名勝天然記念物の新指定》

【史跡】９件

１　宮脇廃寺跡【福島県伊達市】

室町時代の遺構が良好に残っているだけでなく，遺構や出土遺物から，鹿苑寺（金閣寺）などの京都の寺とのつながりが認められ，史料から窺われる室町幕府と伊達氏との関係を具体的に示す寺跡。北山文化の東北への伝播を知る上でも重要。

（室町幕府と伊達氏との結びつきを遺構と遺物によって，具体的に示す寺院跡。）

２　流廃寺跡【福島県東白川郡棚倉町】

東北における初期の山林寺院。創建当初の状況を極めて良好に留めており，平安時代の山林寺院のあり方を知る上で重要。また，出土遺物から，密教的性格を有していたと考えられ，密教の伝播を考える上でも重要な遺跡。

（東北における初期の山林寺院。極めて良好に遺存しており，密教的性格を有している。）

３　唐沢山城跡【栃木県佐野市】

関東有数の大規模な山城であるとともに，織豊系城郭として整備された数少ない城。また，山頂部の高石垣や山麓部に営まれた居館跡群が良好に残るとともに，築城から廃城に至るまでの城郭の変遷を窺うことができるなど，中世城館の展開を知る上で重要。

（関東有数の大規模な中世山城であるとともに，織豊系城郭として整備された数少ない城。）

４　梅之木遺跡【山梨県北杜市】

八ヶ岳南麓における縄文時代中期の環状集落。集落全体の詳細な構造をはじめ，居住域とそれに近接する河岸段丘上に立地する遺構とつながる道状遺構を検出し，生活域の全体構造が明らかになった稀有な遺跡。

（竪穴建物や道状遺構等から生活域の全体構造がわかる，縄文時代中期の環状集落跡。）

５　恒川官衙遺跡【長野県飯田市】

７世紀後半～１０世紀前半にかけて営まれた伊那郡衙（郡家）と考えられる遺跡。倉庫群をはじめとする掘立柱建物と「恒川清水」と呼ばれる祭祀遺構及び，和同開珎銀銭，陶硯，緑釉陶器などの遺物が検出され，古代国家の地域支配の実態を知る上で重要。

（古代伊那郡の郡衙（郡家）と考えられる倉庫跡と祭祀遺構。）

６　島原藩主深溝松平家墓所【愛知県額田郡幸田町】

江戸時代，十八松平と呼ばれた譜代大名深溝松平家によって営まれた大名家墓所。菩提寺である瑞雲山本光寺と東西の廟所からなる。吉田神道の思想にもとづき，神殿型の墓標を採用した。死没地の何処かに関わらず，墳墓の地を重視し続けた点に特徴がある。

（かつての本拠地を墳墓の地とし続けた，江戸時代深溝松平家の大名家墓所。）

７　雪野山古墳【滋賀県近江八幡市・東近江市・蒲生郡竜王町】

雪野山古墳は墳長７０ｍの前方後円墳で，後円部の竪穴式石室からは青銅鏡や碧玉製石製品のほか，銅鏃や鉄鏃，鉄製の武器や農工具，鞆などが未盗掘の状態のまま，多数出土した。古墳時代前期前半の副葬品目をほぼ網羅しており，希有な事例といえる。

（墳長７０ｍの前方後円墳で，未盗掘の状況で多数の副葬品が出土した古墳。）

８　中須東原遺跡【島根県益田市】

中世の港湾遺跡で，港を中心に展開した町の街区が良好な状態で残る等，その構造が判明する希有な遺跡。また，『益田家文書』と発掘調査成果を併せ検討することにより，中世の港湾遺跡の成立と展開や，港湾を利用した交易の内容まで知ることができる遺跡。

（中世の港湾の成立と展開だけでなく，文献等から交易の内容まで知ることができる遺跡。）

９　八代城跡群【熊本県八代市】

古麓城跡

麦島城跡

八代城跡

八代城跡群は，球磨川河口部に継続して築かれ，中世から近世の肥後国南部の政治拠点として機能した城跡群である。南北朝・戦国期の古麓城跡，小西行長が築城した麦島城跡，加藤・細川藩政期の八代城跡からなる。肥後南部地域の権力と築城技術の変遷を知る上

で貴重である。
（球磨川河口部に築かれた城跡群。中世から近世にかけての地域権力と築城技術の変遷を一体として理解できる遺跡。）

【名勝】　２件

１　おくのほそ道の風景地

草加松原

ガンマンガ淵（慈雲寺境内）

八幡宮（那須神社境内）

殺生石

黒塚の岩屋

武隈の松

金鶏山

高館

象潟及び汐越

親しらず

有磯海（女岩）

那谷寺境内（奇石）

大垣船町川湊

【埼玉県草加市，栃木県日光市・大田原市・那須郡那須町，福島県二本松市，宮城県岩沼市，岩手県西磐井郡平泉町，秋田県にかほ市，新潟県糸魚川市，富山県高岡市，石川県小松市，岐阜県大垣市】

松尾芭蕉は古歌の名所，由緒・来歴の地を訪ねて陸奥・北陸路を旅し，紀行文学の傑作である『おくのほそ道』を完成させた。芭蕉とその弟子の曾良が作品に書きとめた風景は近世・近代を通じて人々の風景観に影響を与え続け，今なお往時の雰囲気と遺風を伝える一体の風致景観である。
（松尾芭蕉が『おくのほそ道』に記した一群の名所，由緒・来歴の地から成る一体の風致景観。）

２　久部良バリ及び久部良フリシ【沖縄県八重山郡与那国町】

与那国島の北西岸に位置し，砂岩と琉球石灰岩から成る海浜景観。中央の深い断層崖の亀裂は琉球王府の人頭税に苦しんだとされる島びとたちの伝承を生み，海浜は害虫の霊を海へと送る儀礼の場となるなど，与那国島の精神文化を表す独特の風致景観である。

（与那国島の伝承･儀礼に彩られた砂岩･琉球石灰岩及び断層崖から成る独特の海浜景観。）

【天然記念物】　３件

１　大歩危【徳島県三好市】

吉野川中流の大歩危に分布する三波川変成岩は，古来石材としても著名であるが，海洋プレートの沈み込みにより付加された地層から構成されるという，わが国の成り立ちを知る上で極めて重要。

（海洋プレートの沈み込みにより形成された，三波川変成岩の国内有数の露出地。）

２　猪崎鼻の堆積構造【宮崎県日南市】

日南層群とよばれる４０００～２２００万年前の地層には，当時の深海底の様々な堆積構造・生痕化石が典型的に見られ，当時の古環境や堆積の仕組みを知る場所として大変貴重。

（日本列島の生い立ちを知る上で重要な堆積構造が典型的にみられる場所。）

３　喜界島の隆起サンゴ礁上植物群落【鹿児島県大島郡喜界町】

隆起サンゴ礁上に発達する海岸植生とそれに続く沿岸地樹林である。飛沫帯の無植生域から矮性低木群落，風衝低木群落，さらに沿岸地の樹林まで連続的な植生の帯状分布が見られる。北限域にありながら面積が広く，多様性の高い植物群落として貴重である。

（隆起サンゴ礁上植物群落の北限。海浜から高台まで多様な植物がみられる。）

《登録記念物の新登録》

【名勝地関係・遺跡関係】　１件

岡倉天心旧宅・庭園及び大五浦・小五浦【茨城県北茨城市】

近代日本美術の発展や文化財保護に多大な功績を残した岡倉天心が転居した地。一部にダイナマイトを用いて造成された敷地には，居宅，長屋門，六角堂等の他，庭園があり，敷地の前に広がる大五浦・小五浦には大小の岩礁が点在する。

（近代日本美術の発展と文化財保護に大きく寄与した岡倉天心の居宅・庭園及びその前に広がる海岸。）

【名勝地関係】　２件

１　旧南部氏別邸庭園【岩手県盛岡市】

旧盛岡藩主南部氏の別邸庭園。江戸時代に造られた大名庭園が明治末期に大きく改修され，今日まで残る。愛宕山に隣接し，広い池の周囲及び中島に様々な燈籠類やマツ，モミジ等の樹木が配されている。

（盛岡藩の「御薬園」があった地に造営された旧藩主南部氏の別邸庭園。）

２　小早川氏庭園【長崎県島原市】

温泉岳東麓の島原の城下町に豊富な湧水を引き入れて造った「水屋敷」と呼ぶ一群の住宅の池泉庭園のひとつ。池泉に架かる２連の石造反橋，用途により区分された導水路の系統などは，近世から近代にかけて島原の城下町に継承されてきた独特の手法である。

（島原城下に豊富な湧水を引き入れて造った「水屋敷」と呼ぶ住宅の池泉庭園のひとつ。）

《重要文化的景観の新選定》

【重要文化的景観】　５件

１　長良川中流域における岐阜の文化的景観【岐阜県岐阜市】

美濃山地と濃尾平野の境界部の長良川扇状地において，鵜飼漁・問屋業等の生活・生業及び金華山を中心にした岐阜城下町の構造を基盤に，重層的に発展形成された都市の文化的景観。

（長良川による生活・生業及び岐阜城下町の構造を基盤に重層的に発展形成された都市の文化的景観。）

２　東草野の山村景観【滋賀県米原市】

滋賀県北東部の姉川上流において，峠を介した流通・往来によって発達した景観地で，カイダレなど独特の設備を備えた民家形態や，集落ごとに発達した副業など，豪雪に対応した生活・生業によって形成された文化的景観。

（カイダレを備えた民家や集落ごとに発達した副業など，豪雪に対応した生活・生業による文化的景観。）

３　宮津天橋立の文化的景観【京都府宮津市】

古代の丹後国府比定地から中・近世の信仰地，近・現代の行楽地へと中心地機能を維持しながら発展してきた当地の歴史的重層性を示す土地利用の在り方と，宮津湾西岸及び阿蘇海北岸で営まれる農業・漁業による土地利用の在り方とが複合した独特の文化的景観。

（古代からの中心地機能を示す土地利用と，農村及び漁村とが複合した文化的景観。）

４　生野鉱山及び鉱山町の文化的景観【兵庫県朝来市】

鉱山開発及びそれに伴う都市発展によって形成された文化的景観であり，現役の鉱業都市として生産活動及び山神祭等の習俗を継承しつつ，トロッコ道跡やカラミ石の石積みなど鉱業都市に独特の土地利用の在り方を示す。

（現在も生産活動を継続する現役の鉱業都市であり，トロッコ道跡・カラミ石積みなど独特の土地利用を示す。）

５　奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観【島根県仁多郡奥出雲町】

我が国有数の鉄産地である中国山地の斐伊川源流部に位置する奥出雲地域においては，たたら製鉄と鉄穴流しが盛んに行われた。その過程で鉄穴流しの跡地に形成された広大な棚田と，今なお残るたたら製鉄による文化的景観。

（中国地方斐伊川源流部奥出雲地域の鉄穴流し由来の棚田と，今なお残るたたら製鉄による文化的景観。）

史跡等の指定等

《 史跡の新指定 》　９件

１　宮脇廃寺跡【福島県伊達市】

阿武隈山地の北西端付近，伊達市霊山町大石に所在する１５世紀前半に創建され，１５世紀中頃に焼失した寺院跡。平成１８年度から行われた発掘調査により，寺跡の範囲や内容が明らかになった。

寺跡は，伊達氏の本拠地である梁川から，霊山へと向かう街道に面した狭隘な谷筋に立地する。池を中心に建てられた２棟の礎石建物が確認されている。いずれの建物も保存状態は良好であり，池にせり出して造られた礎石建物は仏堂と考えられ、四面に縁が巡る総瓦葺である。池に浮かび上がる仏堂の様を演出したと考えられ，北山文化の影響が想定される。また，出土した軒平瓦の大半を占める半截菊花文軒平瓦は，京都相国寺，鹿苑寺（金閣寺），栃木県足利市樺崎寺，鎌倉のものと共通する。

室町幕府と鎌倉府とが対立した時期，伊達氏は幕府方として行動したことが史料から知られるが，宮脇廃寺跡の遺構や出土瓦は，幕府と伊達氏との結びつきを考古学的にも証明する遺物として注目される。北山文化の東北への伝播を知る上でも重要である。

２　流廃寺跡【福島県東白川郡棚倉町】

阿武隈高地の南端の丘陵上に立地する９世紀後半創建，１０世紀中頃に広範囲に及ぶ火災により廃絶した山林寺院跡。平成４年から実施された発掘調査の結果，ほぼ一本の尾根筋に沿って並列する１３箇所の人工的な平坦地と９棟の礎石建物等が極めて良好な状態で検出された。

検出された建物には，伽藍の中心を構成すると考えられる大規模な建物と，小規模な建物があるが，いずれもそれぞれ独立した平坦地や緩斜面に建てられている。そして，これらの平坦地を結ぶ通路や階段が検出されたことにより，伽藍内の導線を復元することができる。

また踏査で発見された，刀身に梵字と炎状の文様を交互に配する金銀象嵌鉄剣は，不動明王像所持の剣か，僧や修験者が所持した剣と考えられ，明治時代に採集された銅製三鈷杵とともに，流廃寺が密教的な性格を有していたことを示す遺物として注目される。
平安時代の山林寺院の伽藍のあり方や密教の伝播を知る上でも重要である。

３　唐沢山城跡【栃木県佐野市】

佐野市街地の北方に位置する唐沢山山頂を主郭として，一帯に曲輪を配する山城。広大な城域を有し，山頂部には関東では数少ない織豊期の高石垣があり，山麓部には領主居館跡をはじめとする居館跡群が良好な状態で残る。

史料からは，１５世紀後半には既に存在していたこと，また，境目の城として，関東管領と古河公方の抗争以来，戦国時代を通じて，北条氏と上杉氏の抗争等の舞台となっていることが知られる。また，天正２０年（１５９２）豊臣秀吉の家臣の子富田信種（佐野信吉）が，天徳寺宝衍（佐野房綱）の養子になったことを契機に，織豊系城郭として整備されたと考えられる。慶長年間に信吉が，現在の佐野市街地にある佐野城へと本城を移したことにより廃城となった。

遺構は山頂部から山麓まで広域に残っており，山頂部には織豊期に整備された高石垣，山腹には中世山城として機能していた頃の曲輪や堀切，山麓には大規模な堀や土塁を伴う複数の屋敷跡が極めて良好に残る。中世山城として機能していた段階から，何度かの改変を経て，織豊系城郭として整備されるまでの過程を読み取ることができるなど，中世城館の変遷を知る上で重要な城跡。

４　梅之木遺跡【山梨県北杜市】

梅之木遺跡は，日本列島の中でも，縄文時代中期の遺跡の密集度が傑出している八ヶ岳南麓の東端部に位置し，標高７７０ｍから７９０ｍの西向き緩斜面に立地する，縄文時代中期中葉から末葉にかけての集落跡である。

遺跡の中心はこの緩斜面上の環状集落であり，南北６０ｍ，東西２０ｍの遺構のない楕円形の中央広場を取り囲むように，約１５０棟からなる竪穴建物群が東西・南北とも１００ｍの範囲で広がる。環状集落の北側の急斜面下に流れる湯沢川左岸の河岸段丘上には，敷石建物や集石土坑からなる遺構群が存在するが，環状集落からこの遺構群に通じる道状遺構がこの北側急斜面で確認された。これを道状遺構とした根拠は，明らかに段切造成されていること，踏み固められていること，出土土器は環状集落と同じ時期であること，環状集落と遺構群を最短距離で結んでいること等であり，全国的にみても類似例は少ない。

八ヶ岳南麓にはおよそ３～５ｋｍ間隔で縄文時代中期の集落遺跡が分布するが，その中でも，環状集落の構造と年代をはじめ，河岸段丘上の遺構群の実態や道状遺構の存在など，生活域すべての構造が判明した事例は他にない。

５　恒川官衙遺跡【長野県飯田市】

長野県南部の伊那谷の南に位置する，標高４２０～４３８ｍの比較的平坦な低位段丘上に所在する。この遺跡の発掘調査は，昭和５２年から始められ，奈良・平安時代の官衙的性格を有する遺跡として注目された。飯田市教育委員会では，この遺跡の重要性に鑑み，昭和５８年から７４次にわたり，遺跡の範囲と内容を確認するための発掘調査等を実施してきた。

その結果，正倉，正倉区画溝，郡衙の北限とみられる溝，祭祀跡などの諸遺構を検出した。正倉区画溝は，北東側は未確認であるが，長辺２１５ｍ，短辺１５０ｍで，北側にある高岡第１号古墳を避けて台形を呈し，内側の遺構はⅠ期が７世紀後半，Ⅱ期が８世紀前半，Ⅲ期が８世紀後半から９世紀代，Ⅳ期が９世紀末から１０世紀前半の４期にわたって変遷をしていた。一方，正倉域から南西２５０ｍのところに，「恒川清水」と呼ばれている地点がある。周辺からは，祭祀遺物の出土が確認され，律令的な祭祀がおこなわれたとみなされている。ちなみに当地は現在においても，地域住民によってお祭りがおこなわれている。

出土遺物としては，多数の土器，和同開珎銀銭，緑釉陶器，中でも陶硯の存在が注目され，祭祀跡からは，人形，馬形，斎串などが出土している。

恒川官衙遺跡は，確認された遺構や遺物のあり方，文献史料等から，伊那郡衙（郡家）の可能性が高い重要な遺跡である。

６　島原藩主深溝松平家墓所【愛知県額田郡幸田町】

島原藩主深溝松平家墓所は，戦国時代に分立した松平氏の一家で，江戸時代に十八松平と称された深溝松平家の墓所である。菩提寺である瑞雲山本光寺と東西の廟所からなる。

深溝松平家は初代忠定が深溝の地を本拠としたことに始まり，４代家忠の時，家康の関東移封に従って深溝を離れるが，５代忠利は，慶長６年（１６０１）に１万石の大名として三河に戻り，５代忠利から１７代忠愛までの１３名と明治以降の１８代・１９代が死没地の何処かにかかわらず，深溝の本光寺に埋葬された。深溝への遺骸の埋葬は，５代忠利の遺命と伝承されている。６代忠房は寛文９年（１６６９），肥前島原に転封となった。西廟所の中央に初代から４代までの墓地が置かれ，その東側に５代忠利の肖影堂が建つ。忠房の世子好房の逝去にあたり，吉田神道を崇敬する忠房夫妻によって，神殿型の墓標が西廟所に建設され，以後，歴代当主の墓標形式となった。

６代忠房の正室永春院の逝去を契機に，新たに東廟所が造営される。そこには，西廟所に埋葬された１１代忠恕を除く１９代までの当主が埋葬されている。７代忠雄墓所の発掘

調査で下部構造も明らかとされ，棺内及び棺と石室の間から太刀やガラス杯・銀製香道具等の豊富な副葬品が出土した。

島原藩主深溝松平家墓所は，神殿型の墓標を採用し，墳墓の地に継続して埋葬するという特徴を有しており，大名家の葬送儀礼のあり方を考えるうえで極めて重要である。

７　雪野山古墳【滋賀県近江八幡市・東近江市・蒲生郡竜王町】

雪野山古墳は湖東平野の日野川中流域の東寄りに位置する，雪野山の山頂に立地する墳長７０ｍの前方後円墳である。平成元年度から平成４年度にわたって八日市市教育委員会（当時）と大阪大学を中心とした発掘調査団によって発掘調査が行われ，平成７年度には，発掘調査報告書が刊行された。

墳丘は２段築成で，墳丘の一部には葺石も認められる。なお，埴輪は確認されていない。後円部の中央には，南北方位に沿って２基の埋葬施設が併行して存在する。調査が行われたのは東側の竪穴式石室のみで，その規模は，内法で長さ６．１ｍ，幅１．５ｍ，高さ１．６ｍである。石室には粘土棺床が築かれており，半環状の突起を有した舟形木棺が納められていた。棺内及び棺外からは青銅鏡５面と碧玉製石製品のほか，銅鏃や鉄鏃，鉄製の武器や農工具，鞦などが未盗掘の状態のまま，多数出土した。これらの副葬品の製作年代等から，雪野山古墳の築造時期は概ね４世紀初頭に位置づけられる。また，これらの副葬品が古墳時代前期前半における古墳の副葬品目をほぼ網羅していることから，当時の葬送儀礼を復元することのできる貴重な事例である。

８　中須東原遺跡【島根県益田市】

益田川河口左岸の砂丘後背の低湿地に立地する港湾を中心に発展した遺跡。発掘調査で，潟湖の岸に沿って，船着き場跡と考えられる大規模な礫敷き遺構が，全長約４０ｍ，最大幅約１０ｍにわたって存在していることが確認されたのをはじめ，複数の掘立柱建物や鍛冶炉，鉄滓廃棄場，墓，道路等の遺構が検出された。

検出遺構の多くは，１４世紀から１６世紀のものであり，近接する中須西原遺跡の発掘調査成果や，検出された道路遺構の位置と，明治初期の絵図との比較から，方形の街区が形成されていた可能性が高い。出土遺物には貿易陶磁器が目立ち，中でも中国陶磁に次いで，１５世紀代の朝鮮半島産の陶磁器やタイ産の陶器も認められることが注目される。内容が判明した数少ない中世の港湾遺跡であり，港を中心に展開した町の街区が良好な状態で残る等，遺跡の構造が判明する希有な遺跡。

また，遺跡の最盛期は，益田に本拠を置いた豪族益田氏の強い関与が想定される。益田

氏が水運と深くかかわっていたことが，『益田家文書』から窺われるが，この文書と発掘調査成果を併せ検討することにより，中世の港湾遺跡の成立と展開，さらには港湾を利用した交易の内容まで知ることができる重要な遺跡である。

９　八代城跡群【熊本県八代市】

古麓城跡

麦島城跡

八代城跡

八代城跡群は，球磨川河口部の八代市街地と東方の丘陵部に所在する，中世から近世にかけて熊本県南部の八代地域の支配拠点となった三つの城跡と関連遺跡である。八代は薩摩街道と球磨川水運の結節点であり，徳渕の港を有し，肥後及び九州の水陸交通の要衝であった。

古麓城は，南北朝時代から戦国時代にかけて名和氏・相良氏により球磨川右岸の丘陵部に築城，整備された山城である。天正１５年（１５８７）には九州征伐の豊臣秀吉が滞在した。麦島城は，古麓城に替わって小西行長が球磨川河口部の徳渕の港に隣接して築城した総石垣造りの城である。関ヶ原の戦い後は加藤清正の支城となったが，元和５年（１６１９）の地震で倒壊し，北側の松江に八代城（松江城とも呼ばれる）が築かれた。その後，細川家が肥後国主となると藩主忠利の父・細川三斎（忠興）が入城，正保３年（１６４６）以降は家老松井氏が城代となり，熊本城とともに肥後一国二城体制を支える城として機能した。また，加藤氏が麦島城を改修する際瓦を焼いた平山瓦窯跡，城代松井家の歴代墓所も残る。

このように，八代城跡群は，歴代の政治権力による港湾・水運の掌握の様相を窺えるとともに，一地域で中・近世の城郭構造の変遷を知ることができ，関連遺跡も残っており，一体として歴史を把握できる事例として貴重である。

《 名勝の新指定 》　２件

１　おくのほそ道の風景地

草加松原

ガンマンガ淵（慈雲寺境内）

八幡宮（那須神社境内）

殺生石

黒塚の岩屋

武隈の松

金鶏山

高館

象潟及び汐越

親しらず

有磯海（女岩）

那谷寺境内（奇石）

大垣船町川湊

【埼玉県草加市，栃木県日光市・大田原市・那須郡那須町，福島県二本松市，宮城県岩沼市，岩手県西磐井郡平泉町，秋田県にかほ市，新潟県糸魚川市，富山県高岡市，石川県小松市，岐阜県大垣市】

松尾芭蕉（１６４４～１６９４）は,「俳聖」とも称された日本の代表的な俳諧師である。芭蕉は往昔の歌人であった能因・西行などの古歌にまつわる歌枕の名所及び由緒・来歴の地を訪ねて陸奥・北陸路を旅し，自らの俳句のみならず，同道した弟子の曾良の俳句をも織り交ぜ，紀行文学の傑作である『おくのほそ道』を完成させた。

芭蕉と曾良が訪ね,『おくのほそ道』又は『曾良旅日記』に書きとめた場所，２人が俳句を残した名所及び由緒・来歴の地の多くは，近世・近代を通じて広く観賞の対象として知られるようになり，往時を偲ぶよすがとなる優れた風景を今に伝える。それらは，すべて『おくのほそ道』というひとつの作品を通じて後世の人々の風景観に影響を与え続け，今なお『おくのほそ道』の時代の雰囲気と遺風を伝える。同時に，変わらずに残されてきたものと移ろいゆくものとを同時に捉えようとした芭蕉の「不易流行」の精神を表す場所であり，個別に評価するとともに相互の繋がりのあるものとして評価すべき一体の風致景観である。優れた風景を伝える場所のうち，今回は準備が整った１３箇所を「おくのほそ道の風景地」として指定し，保護する。

２　久部良バリ及び久部良フリシ【沖縄県八重山郡与那国町】

我が国の最西端に位置する与那国島の北西岸には，久部良フリシと呼ばれる独特の海浜景観が展開し，そのほぼ中央に久部良バリと呼ぶ深い断層崖の亀裂が存在する。

久部良フリシは，主として砂岩から成る八重山層群の上面を堅い琉球石灰岩から成る琉球層群が覆う構造をもつ。海波の浸食により凹部が形成された緑色及び紫褐色の砂岩の急崖から成る風致景観は，独特かつ傑出している。その中央の久部良バリは全長約１５ｍ，幅約３．５ｍ，深さ約７ｍの規模を持ち，琉球王府（中山）による人頭税の負担にあえいだ島びとたちが，妊婦に崖を飛ばせて胎児とともに死に至らしめたとの伝承を生み，その背景を含め近世後期の与那国島における社会を考える上で深い意義を持つ。

また，海岸は，旧暦の４月に稲穂の害虫を駆除するために，虫の霊を海の彼方の理想郷・アンドゥヌチマへと送るフームヌン（穂物忌み）の儀礼の場となっており，その独特の風致景観と相俟って，与那国島の精神文化を語る上で重要な意義を持つ。

このように，久部良バリ及び久部良フリシの海浜地形は，与那国島に固有の伝承・儀礼に彩られた独特の風致景観を形成している。

《 天然記念物の新指定 》　３件

１　大歩危【徳島県三好市】

大歩危は，徳島県三好市の一級河川吉野川の中流にあり，河床と河岸には，関東から九州まで日本列島を縦断して分布する三波川変成岩が典型的にみられる。三波川変成岩は一般に「三波石」，徳島では「阿波の青石」と呼ばれ，共に石材として著名である。三波川結晶片岩は，中生代ジュラ紀から白亜紀にかけての海洋プレートの沈み込みにより大陸側に付加され，地下深くに押し込まれ，高い圧力のもとで再結晶したものである。大歩危付近の三波川変成岩は，ドーム状の背斜構造という褶曲構造を示している。今回の指定対象地では，背斜構造の中心部に近い部分に原岩の年代（変成作用前の年代）が新しく変成の程度が弱い砂質片岩や礫質片岩などが分布し，背斜構造の中心部から離れた部分には泥質片岩や緑色片岩などの変成度の高い古い岩石が分布し，見かけ上新しい岩石と古い岩石の位置関係が逆転している。

大歩危の三波川変成岩は，海洋プレートの沈み込みにより付加された地層から構成されるわが国の成り立ちを知る上で，極めて重要である。

２　猪崎鼻の堆積構造【宮崎県日南市】

猪崎鼻は，宮崎県南部の日南市にある日向灘に突き出した小さな岬である。ここには，今からおよそ４０００～２２００万年前に，海溝から大陸斜面にかけての深海域に堆積し，海洋プレートの沈み込みに伴って付加された日南層群とよばれる砂岩泥岩互層が露出する。猪崎鼻ではことに，混濁流といわれる，地震などをきっかけに海底を流れ下る高密度の流れから堆積した地層に特徴的な堆積構造が典型的に発達するほか，深海底での堆積環境を示す様々な生痕化石や，海底地滑りに伴うスランプの構造もみられる。堆積構造の研究は，地質学そのものの歴史と同じ位，古くから行われてきた分野であり，堆積岩は，地史を編む際に欠かせない重要な情報源である。猪崎鼻の多種多様な堆積構造・生痕化石は，このような日本列島の生い立ち（地史）に関する重要な情報である堆積構造が典型的に発達することに加え，堆積時の古環境や堆積の仕組みを知る場所として大変貴重な場所である。特に，砂岩層の底面にみられるフルートキャストの規模と保存の良さ，美しさは他に類をみない。

３　喜界島の隆起サンゴ礁上植物群落【鹿児島県大島郡喜界町】

喜界島は奄美大島の東に位置する南北１２．５ｋｍ，東西５．５ｋｍの楕円形の島で，地形は平坦で琉球石灰岩の段丘により構成されている。島の周囲はサンゴ礁に縁取られ，北限域にあたる完新世の隆起サンゴ礁が広がっている。

対象地域は喜界島の南西部にある荒木海岸である。喜界島では汀線から標高約２０ｍの台地までの間に広い隆起サンゴ礁の段丘が形成されている。汀線の飛沫帯から標高約５ｍまでに，点々と植物が分布する群落から矮性低木群落などの隆起サンゴ礁上植物群落が展開されている。それ以上の高さでは風衝低木林となり，台地付近には沿岸地の樹林が残されており，連続的な植生の帯状分布が良好に見られる。

隆起サンゴ礁地域は平坦地のため人為的な改変されることが多く，かつて園芸目的での植物の盗掘が頻発していた。喜界町では，地域の自然の重要性から，昭和４８年６月に鹿児島県内で最も早く喜界町自然保護条例を制定し，開発を規制，海岸植物等の保護を行っている。

対象地域は，隆起サンゴ礁の北限域にありながら，海岸植生から沿岸地樹林まで連続して残されており，面積も広く多様性の高い植物群落として貴重な地域である。

《特別史跡の追加指定》　４件

１　三内丸山遺跡【青森県青森市】

縄文時代前期～中期，東西７００ｍ，南北６００ｍの大規模集落跡。大型竪穴建物群，竪穴建物群，掘立柱建物群，土坑墓群等などの遺構，祭祀遺物，交流遺物，動植物遺存体等から当時の精神生活や地域間交流も復元できる。今回，近年発見された水場遺構等を追加指定する。

２　藤原宮跡【奈良県橿原市】

持統天皇８年（６９４）から和銅３年（７１０）まで営まれた古代の都城跡。藤原京跡の中心部に位置し，約１ｋｍ四方の区画内に内裏・大極殿，役所群が建てられ，我が国の政治文化の中心として栄えた。今回，条件の整った部分を追加指定する。

３　大宰府跡【福岡県太宰府市】

古代において西海道諸国（現在の九州）の統括と大陸外交の拠点として設置された役所跡。天智天皇２年（６６３）の白村江の戦いの後，水城や大野城などが築かれ防備が強化された。政庁は３期の建物変遷が判明している。今回，条件の整った西側部分を追加指定する。

４　水城跡【福岡県太宰府市・大野城市・春日市】

天智天皇３年（６６４），唐・新羅の侵攻に備えて大宰府防衛のため築造された防御施設。全長約１．２㎞に及ぶ土塁と濠からなり，古代の軍事を知る上で貴重である。今回，条件の整った部分を追加指定する。

《 史跡の統合，追加指定及び名称変更 》　１件

百舌鳥古墳群【大阪府堺市】

いたすけ古墳

長塚古墳

収 塚古墳

塚 廻古墳

文珠塚古墳（もんじゅづかこふん）
丸保山古墳（まるほやまこふん）
乳岡古墳（ちのおかこふん）
御廟表塚古墳（ごびょうおもてづかこふん）
ドンチャ山古墳（やまこふん）
正楽寺山古墳（しょうらくじやまこふん）
鏡塚古墳（かがみづかこふん）
善右ヱ門山古墳（ぜんえ　もんやまこふん）
銭塚古墳（ぜにづかこふん）
グワショウ坊古墳（ぼうこふん）
旗塚古墳（はたづかこふん）
寺山南山古墳（てらやまみなみやまこふん）
七観音古墳（しちかんのんこふん）

↑

（旧名称）

いたすけ古墳（こふん）

＋

長塚古墳（ながつかこふん）

＋

収塚古墳（おさめづかこふん）

＋

塚廻古墳（つかまわりこふん）

＋

文珠塚古墳（もんじゅづかこふん）

＋

丸保山古墳（まるほやまこふん）

＋

乳岡古墳（ちのおかこふん）

４世紀末から６世紀前半にかけて形成された古墳群であり，当時の政治的・社会的構造を如実に示す希有な事例である。このたび，１０基の古墳を追加指定すると共に，「百舌鳥古墳群」として名称変更し，一体的な保護を図る。

《史跡の追加指定及び名称変更》　４件

１　足尾銅山跡（あしおどうざんあと）【栃木県日光市】

通洞坑（つうどうこう）
宇都野火薬庫跡（うつのかやくこあと）
本山坑（ほんざんこう）
本山動力所跡（ほんざんどうりょくしょあと）
本山製錬所跡（ほんざんせいれんしょあと）
本山鉱山神社跡（ほんざんこうざんじんじゃあと）

↑

（旧名称）
足尾銅山跡（あしおどうざんあと）
通洞坑（つうどうこう）
宇都野火薬庫跡（うつのかやくこあと）

近世・近代の代表的鉱山跡で，近代においては我が国最大の産銅量を誇った。本山地区の本山坑，本山動力所，本山製錬所，本山鉱山神社といった採鉱・製錬・生活に関わる諸施設を追加指定し，名称を変更する。本山製錬所は明治初期から同じ場所で製錬を継続した足尾銅山の中心施設であり，貨物駅である本山駅も附帯する。

２　牽牛子塚古墳（けんごしづかこふん）・越塚御門古墳（こしつかごもんこふん）【奈良県高市郡明日香村】

↑

（旧名称）
牽牛子塚古墳（あさがおづかこふん）

牽牛子塚古墳は，墳丘周囲に石敷を有し，大王墓に多く採用される八角形墳である。その南東に新たな終末期古墳の存在が確認され越塚御門古墳と命名された。これらは，終末期古墳の様相を知る上できわめて重要であることから，今回確認された墳丘部分及び越塚御門古墳を追加指定し，名称を「牽牛子塚古墳・越塚御門古墳」に変更する。

３　鴻臚館跡（こうろかんあと）　附（つけたり）　女原瓦窯跡（みょうばるかわらがまあと）【福岡県福岡市】

↑

（旧名称）

鴻臚館跡（こうろかんあと）

鴻臚館跡は，古代の客館施設の遺跡である。女原瓦窯跡は，その鴻臚館に瓦を供給していたことが明らかになると共に，その遺存状態も良好であることから，追加指定を行い，名称を変更して，一体的に保護を図る。

４　長崎台場跡（ながさきだいばあと）【長崎県長崎市】

魚見岳台場跡（うおみだけだいばあと）

四郎ヶ島台場跡（しろうがしまだいばあと）

↑

（旧名称）

長崎台場跡（ながさきだいばあと）

魚見岳台場跡（うおみだけだいばあと）

長崎台場跡は，江戸時代，海外に開かれていた長崎港を警衛するための施設であり，文化９年（１８１２）築造の魚見岳台場跡が指定されている。今回，嘉永６年（１８５３）幕末に佐賀藩が築造した四郎ヶ島台場跡を追加するとともに，名称を変更する。

《史跡の追加指定及び一部解除》　１件

島田宿大井川川越遺跡（しまだしゅくおおいがわかわごしいせき）【静岡県島田市】

箱根八里と並んでわが国の交通史上重要な大井川の川越に関わる遺跡。東海道と川会所（かわかいしょ）や札場等が指定され，復元整備が行われている。今回，神社や並木敷き等を追加指定するとともに，かつて川会所建物が一時的に移築されていた場所の指定解除を行う。

《史跡の追加指定 》　１６件

１　御所野遺跡【岩手県二戸郡一戸町】

縄文時代中期後葉～末葉の，東西５００ｍ，南北１２０ｍの細長い範囲に，配石遺構を馬蹄形状に取り囲む１００棟以上の竪穴建物からなる，大規模な集落跡。焼失建物の検討により，遺跡内の竪穴建物の多くは土屋根であったことが判明した遺跡として重要。今回，条件の整った箇所を追加指定する。

２　小峰城跡【福島県白河市】

江戸時代，白河藩主歴代の居城として築かれ，奥州の関門として軍事的に重要な役割を果たした城跡であり，阿武隈川右岸の丘陵に所在する。今回，本丸より東側に延びる，石垣や堀跡が残る丘陵部分を追加指定する。

３　下野国分尼寺跡【栃木県下野市】

聖武天皇の詔により国ごとに建てられた国分尼寺のひとつ。講堂・金堂・中門が一直線に並ぶ。主要伽藍のさらに外周をめぐる溝が確認されたことから，今回はその西側部分について追加指定する。

４　内裏塚古墳【千葉県富津市】

墳長１４４ｍの古墳時代中期に築造された前方後円墳。周囲には一重の濠が巡り，周濠を含めた総長は１８５ｍに達する。周濠の一部について条件の整った場所を追加指定する。

５　松本城【長野県松本市】

信州を代表する近世城郭で，天守は国宝に指定されている。明治時代，士族に払い下げられ，やがて埋め立てられて宅地化するに至った南外堀西側と西外堀の，条件の整った箇所について追加指定する。

６　昼飯大塚古墳【岐阜県大垣市】

墳長１５０ｍの古墳時代前期後半の前方後円墳。周囲には周濠が巡り，それらを含めた総長は約１８０ｍに達する。今回は，周濠の一部と陸橋状の施設が想定される箇所について追加指定する。

７　清水山城館跡【滋賀県高島市】

琵琶湖の西岸に位置する城館跡で，佐々木越中氏の本拠地とされる。御殿のあった山城跡，家臣団の居宅や寺跡があったと考えられる清水山遺跡や本堂谷遺跡に分かれる。多数の堀と土塁が良好に残る。今回，条件の整った部分を追加指定する。

８　長岡宮跡【京都府向日市】

延暦３年（７８４）に桓武天皇が遷都した古代の宮殿跡。延暦１３年（７９４）に平安京に遷都するまでの１０年間，日本の都であった。これまで大極殿跡，内裏内郭築地回廊跡，朝堂院西第四堂などが指定されている。今回条件の整った部分を追加指定する。

９　大安寺旧境内　附 石橋瓦窯跡【奈良県奈良市，京都府綴喜郡井手町】

大安寺は，東大寺建立までは国家の筆頭寺院であった。石橋瓦窯跡は，発掘調査から，大安寺に瓦を供給した瓦窯であることが明らかになっている。文献にみえる「棚倉瓦屋」である可能性が高く，生産地と供給地を発掘調査と文献史料の両面から考察することができる希有な例。今回，確認調査で瓦窯跡を確認した部分を追加指定する。

１０　出雲国府跡【島根県松江市】

古代出雲国の中心地である国府の役所跡。『出雲国風土記』に記載があり，これまでの発掘調査により，政庁正殿もしくは後殿・後方官衙・国司館・付属工房などが明らかになっている。今回，指定地の南端部の条件の整った部分を追加指定する。

１１　津田古墳群【香川県さぬき市】

古墳時代前期初頭から中期初頭まで連綿と造られた６基の前方後円墳と３基の円墳からなる古墳群。今回，墳長３７ｍの前方後円墳であるうのべ山古墳の墳丘北側部分について，条件の整った部分を追加指定する。

１２　高知城跡【高知県高知市】

関ヶ原の戦いで土佐２０万石を得た山内一豊が，居城として独立丘陵の大高坂山に築いた城跡であり，以後幕末まで土佐藩の拠点として栄えた。天守や書院，追手門などが現存する。今回，条件が整った西堀跡とその一帯を追加指定する。

１３　日野江城跡【長崎県南島原市】

キリシタン大名として著名な有馬氏の居城跡。１６世紀末に１３代当主晴信によって，近世城郭として整備された。金箔瓦，輸入陶磁器などの遺物は，織豊期の大名の経済活動や国内外との交流を知る上で重要。今回，条件が整った部分を追加指定する。

１４　鹿児島紡績所跡【鹿児島県鹿児島市】

慶応３年（１８６７）創業の日本最初の洋式紡績工場。石造平屋建ての工場跡や，技術者として招聘された英国人技師宿舎の建物が現存する。今回，工場建物があった現国道部分を追加指定する。

１５　旧集成館　附寺山炭窯跡　関吉の疎水溝【鹿児島県鹿児島市】

旧集成館は，幕末の薩摩藩主島津斉彬が，西洋技術を導入して造砲・製鉄・硝子その他の工場群を経営した遺跡。今回，集成館の工場群のうち鋳物場が想定される現国道部分，及び白炭を製造した寺山炭窯跡の隣接地を追加指定する。

１６　先島諸島火番盛【沖縄県石垣市，宮古島市，宮古郡多良間村，八重山郡竹富町，八重山郡与那国町】

１７世紀中頃に琉球王府が，異国船監視・通報のため先島諸島に設置した遠見番所跡群。中国への進貢船や異国船の来航を監視し，烽火で連絡した。今回，宮古島市の大神島の遠見台を追加指定する。

《名勝の追加指定及び名称変更》　１件

ピリカノカ

九度山（クトゥンヌプリ）

黄金山（ピンネタイオルシペ）

神威岬（カムイエトゥ）

襟裳岬（オンネエンルム）

瞰望岩（インカルシ）

カムイチャシ

絵鞆半島外海岸

十勝幌尻岳（ポロシリ）

幌尻岳（ポロシリ）

オキクルミのチャシ及びムイノカ

【北海道名寄市・石狩市・枝幸郡浜頓別町・枝幸郡枝幸町・幌泉郡えりも町・紋別郡遠軽町・虻田郡豊浦町・室蘭市・帯広市・河西郡中札内村・沙流郡平取町・新冠郡新冠町】

↑

（旧名称）

ピリカノカ

九度山（クトゥンヌプリ）

黄金山（ピンネタイオルシペ）

神威岬（カムイエトゥ）

襟裳岬（オンネエンルム）

瞰望岩（インカルシ）

カムイチャシ

絵鞆半島外海岸

十勝幌尻岳（ポロシリ）

幌尻岳（ポロシリ）

北海道南部の沙流川水系の額平川の左岸に位置し，天然林に覆われた山塊及び岩峰群から成る優秀な風致景観。アイヌユカラにカムイとして登場するオキクルミの降臨地・居城などの伝承地である。今回，条件が整ったことから追加指定し，名称を変更する。

《天然記念物の追加指定及び一部解除》　１件

ツバキ自生北限地帯【青森県平内町，秋田県男鹿市】

常緑樹であるヤブツバキの日本海側の北限地域にあたる。国土調査で地番面積の錯誤が明らかとなったため，生育範囲等を明確にするため分布調査を行い，ツバキが生育していない地域を指定解除し，隣接地でツバキが良好に生育する地域を追加指定する。

《天然記念物の追加指定》　１件

御油のマツ並木【愛知県豊川市】

旧東海道に残されたクロマツ並木で，江戸時代の面影を残す数少ない代表的なマツ並木である。並木マツの根系の保護等の観点から，道路敷である指定地の外側１５ｍを保存区域とし，順次追加指定を進めている。今回は条件が整った部分を追加指定する。

登録記念物の登録

《 登録記念物（名勝地関係・遺跡関係）の新登録 》　１件

１　岡倉天心旧宅・庭園及び大五浦・小五浦【茨城県北茨城市】

近代日本美術の発展や文化財保護に多大な功績を残した岡倉天心（本名覚三，１８６２～１９１３）が転居した地。邸内には現在，居宅，長屋門，六角堂をはじめ，天心が造った庭園がある。居宅から見える大五浦・小五浦は大小の岩礁が点在する豊かな風致景観を成している。

岡倉天心は日本の美術思想家で，明治３１年（１８９８）に東京美術学校校長を辞職後，日本美術院を設立し，明治３６年に五浦に転居した。その後約１年間のボストン滞在から戻った天心は邸宅の大改造に着手した。

天心邸の敷地は，なだらかに海へと傾斜する固い岩盤上にあり，一部はダイナマイトを用いて造成された。当時の建物のうち，母屋の中心部分や長屋門は現在も残る。また，眼前に広がる太平洋（大五浦・小五浦）とそこに点在する岩礁も庭園の要素として取り込まれている。

以上のように，本遺跡・庭園は日本近代の美術の歴史及び造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

《 登録記念物（名勝地関係）の新登録 》　２件

１　旧南部氏別邸庭園【岩手県盛岡市】

旧南部氏別邸庭園は，盛岡市街地の北，中津川の右岸に位置する。この地には江戸時代初期に盛岡藩の「御薬園」が設けられたが，同園の廃止後に御殿や庭園が造られ，代々の藩主の別荘地となった。明治維新後建物は取り壊され，庭園も荒廃したが，明治４１年（１９０８）に南部家第４３代当主南部利淳により，現在まで残る木造建築と庭園が整備された。

愛宕山に隣接する平坦な土地につくられた庭園は，３つの中島が浮かぶ広い池を中心とし，池の周囲及び中島には様々な意匠の燈籠類やマツ，モミジ等の樹木が配されている。

幾度か改修され，第二次世界大戦後には庭園の一部が失われたものの，江戸時代の絵図等も残っており，その変遷を追うことができる。

以上のように，旧南部氏別邸庭園は，江戸時代以降の東北地方における造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

２　小早川氏庭園【長崎県島原市】

温泉岳東麓の島原の城下町に豊富な湧水を引き入れて造った「水屋敷」と呼ぶ一群の住宅の庭園のひとつで，約４０ｍ四方の敷地中央の主屋に東南面する池泉庭園である。主屋は明治２３年（１８９０）の建造で，その北西に台所棟が連なる。

正面の薬医門から主屋玄関まで導入路の飛石が続き，玄関の手前左手の木戸を経て庭園へと至る。池泉の水は敷地西辺の中央付近において水路により隣家から敷地内へと引き入れられ，流れ・池泉を経て東側の道路沿いの水路へと排水するように造られている。池泉には２連の石造反橋などが架かり，独特の意匠が見られる。また，台所棟北側の洗い場・井戸などの生活用水路は，池泉への導水路と明確に区分されている。

湧水を主体とする池泉庭園及び水利用施設，用途により区分された導水路の系統などは，近世から近代にかけて島原の城下町に継承されてきた独特の手法である。したがって，小早川氏庭園は，島原地方の造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

重要文化的景観の選定等

《 重要文化的景観の新選定 》 ５件

１　長良川中流域における岐阜の文化的景観【岐阜県岐阜市】

美濃山地の南端，濃尾平野の北端の長良川中流域では古くから鵜飼が行われ，長良川堤外地には鵜飼屋地区の鵜匠宅を含む集落及び水運によって発展した問屋業による川原町地区の伝統的町並みが文化的景観を形成している。

また，長良川と金華山に挟まれた扇状地では，中世末から近世に織田信長等によって総構を持つ岐阜城及び城下町が形成され，武家地・寺社地・町人地が形成された。落城後も長良川を介した物資集散地としての地の利を生かし，材木・和紙・糸等を扱う問屋業，提灯・団扇・傘等の手工業を中心とする商業に依拠した岐阜町が発展した。城下町に由来する総構の土塁，水路，街路，町割り等の基本的な構造は現在の土地利用にも踏襲されており，城下町由来の構造の中に残る町家等とともに文化的景観を呈している。

このように，長良川中流域における岐阜の文化的景観は，長良川を中心とした鵜飼漁や問屋業等によって形成された文化的景観及び岐阜城下町の構造を基盤に発展形成された岐阜町の文化的景観が重層したものであり，我が国における生活又は生業の理解のため，欠くことのできないものである。

２　東草野の山村景観【滋賀県米原市】

東草野は，滋賀県の北東部に位置する伊吹山地の西麓に所在し，姉川上流の谷部に形成された山村である。峠を介し，隣接する岐阜県旧坂内村や滋賀県旧浅井町等との流通・往来が古くから盛んであったことは，例えば県境を越えて行われる「廻り仏」など習俗に表れている。

当地は西日本屈指の豪雪地であり，冬季には集落内でも約３ｍに及ぶ積雪となる。そのため，民家はカイダレと呼ばれる長い庇を備えており，軒下に積雪時も使用可能な作業場を確保するほか，敷地内に設えられたイケ・カワト等は消雪に用いられるなど，豪雪に対応した生活の在り方が認められる。当地の基本的な生業は農業であるが，甲津原の麻織，曲谷の石臼，甲賀の竹刀など，冬季を中心とした特徴的な副業が集落ごとに発達した。また，東草野の最南部に位置する吉槻は南北及び東西の交通路の結節点であり，行政施設・商店等が集積する中心地として機能してきた。

このように，東草野の山村景観は，滋賀県北東部の姉川上流において，峠を介した流通・往来によって発達した景観地で，カイダレなど独特の設備を備えた民家形

態や，集落ごとに発達した副業など，豪雪に対応した生活・生業によって形成された文化的景観である。

３　宮津天橋立の文化的景観【京都府宮津市】

宮津天橋立の文化的景観は，宮津湾と阿蘇海とを隔てる天橋立及びその南北に展開する文化的景観である。

このうち，宮津湾西岸から阿蘇海北岸に位置する府中地区には，丹後国分寺跡や条里制に遡る農地などが所在しており，古代丹後国府の所在地に比定される。中世から近世にかけて，当地が成相寺・籠神社等による信仰の中心として機能したことは，１６世紀初頭に雪舟が描いた『天橋立図』等によって示される。さらに，近代になるとケーブルカー等が整備され，土産物・旅館街等の町並みが形成されるなど，観光拠点として発達した。

他方で，国分・小松・中野等の農業集落は旧道沿いに単列の街村形態を成しており，集落内の石積み水路には洗い物をするためのアライバが設えられている。また，阿蘇海ではかつてキンタルイワシと呼ばれたマイワシ漁が盛んであり，溝尻の漁村には海に面して舟屋が連続するなど，特徴的な文化的景観が展開している。

このように，宮津天橋立の文化的景観は，行政・信仰・観光の中心として発展してきた当地の歴史的重層性を示す土地利用の在り方と，宮津湾西岸及び阿蘇海北岸で営まれる農業・漁業による土地利用の在り方とが複合した文化的景観である。

４　生野鉱山及び鉱山町の文化的景観【兵庫県朝来市】

但馬と播磨との境に位置する生野では，古くから鉱山開発が進められた。開坑は大同２年（８０７）と伝わるが，史料での初見は『銀山旧記』であり，天文１１年（１５４２）に但馬守護職の山名祐豊が石見銀山から採掘・製錬技法を導入したとされている。江戸時代には口銀谷・奥銀谷等に灰吹小屋が立ち並び，生野の町は隆盛した。明治になると近代技術が導入され，昭和４８年（１９７３）の閉山まで，我が国有数の鉱山として機能した。閉山後もスズの精錬及びレアメタルの回収が現在まで行われており，特にスズの精錬量は我が国有数の規模を誇る。

生野市街地には，鉱業都市を示す要素が数多く分布している。かつて物資の輸送路として活躍したトロッコ道は，現在も市道として交通の軸線を形成している。また，製錬滓をブロック状に固めたカラミ石は，民家の土台や塀，水路など至る所で用いられている。かつて鉱山に関わる信仰として行われた山神祭は，現在はへいくろう祭等にその精神が引き

継がれており，鉱山町における生活と密接に関わる習俗・伝統が，現在も継承されている。

このように，生野鉱山及び鉱山町の文化的景観は，鉱山開発及びそれに伴う都市発展によって形成された文化的景観であり，現役の鉱業都市として生産活動及び祭等の習俗を継続しつつ，トロッコ道跡やカラミ石の石積みなど鉱業都市に独特の土地利用の在り方を示している。

５　奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観【島根県仁多郡奥出雲町】

斐伊川の源流部に位置する奥出雲地域は，起伏の緩やかな山地と広い盆地が発達しており，「真砂砂鉄」と称される良質な磁鉄鉱を多く含有する地帯であることから，近世・近代にかけて我が国の鉄生産の中心地として隆盛を極め，「たたら製鉄」が栄えた。

丘陵を切り崩し水流によって比重選鉱するという「鉄穴流し」が広範囲に行われ，この鉱山跡地（鉄穴流し跡）では，後にその地形を活かして豊かな棚田が拓かれた。

江戸時代，松江藩は，有力鉄師（たたら経営者）のみに鈩株（鈩経営権）を与え，安定経営を図ったため，国内の一大鉄生産地域となった。明治に入り，安価な洋鉄が大量に輸入されるようになったことなどから，たたら製鉄は次第に衰退し，大正末年には一斉廃業となった。その後，日本刀の材料となる「玉鋼」が枯渇したことから，昭和５２年にたたら製鉄が選定保存技術として復活している。

このように，奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観は，たたら製鉄・鉄穴流し及びその跡地を利用した棚田によって形成されたものである。鉄穴横手（水路）及び鉄穴残丘が点在する棚田が広がりをみせる農山村集落を，かつて鉄山（たたら製鉄用の木炭山林）であった山々が取り囲み，その一部で今なお，たたら製鉄が行われている景観地は，我が国における生活又は生業の理解のため欠くことのできないものである。